



INTERVIEW



ARTIST
|
ヴァスコ・ムラオ
MOURÃO Vasco



DIRECTOR
|
森 純 平
MORI Junpei

私はパラダイスエアのロングステイ・プログラムで2015年に初めて松戸にきました。今回は4回目の滞在になりますが、私にとって松戸は第2のホームで、ここに滞在してクリエイティブな作業をする時間がとても好きです。いつも居心地の良い領域から一歩出ると、世界の見え方も違うし、いろんな刺激が与えられていると感じます。松戸での体験や出会いによって高められる好奇心が、クリエイティブなところに還元されていると思います。私が松戸に滞在して体験したことや感じたことを他のアーティストにも表現してもらい、たくさんの人がつながる関係性をつくっていきたくと考え、新しいレジデンスをつくるプロジェクトを進めています。そして将来的には、私が松戸で活動しているアーティストやクリエイターの方々とポルトガルに連れて行きたいとも思っています。アートに関わっているとその中に共通言語があるので、話す言語が違ってても、豊かな時間の中でつながりが生まれていくと感じています。

PROFILE

1979年生まれ、ポルトガル出身。ドローイングを専門とする美術家。黒いペンと紙、そして時間だけを用いて、都市の街並や建築物を描く。小さなサイズの作品から巨大な壁画まで、美術とイラストレーションの間を自由に行き来しながら作品を展開。著名な新聞・雑誌に作品を提供する他、個人のクライアントのための作品制作などにも取り組んでいる。

松戸は宿場町として繁栄した歴史があるためか、住民の自治意識が高く、寛容性や頼れる関係性があります。東京との距離感や、パラダイスエアがあるビルには階段しかないといった弱点もアーティスト・イン・レジデンスにはハマると思って、約10年前に本プロジェクトをスタートしました。現在パラダイスエアでは年間60名ほどのアーティストが滞在し、その人たちとの交流を求めて地元のクリエイターも入居しています。世界中のアーティストが、各国を移動する途中で訪れ滞在中に作品をつくるなど、ここはアーティストたちのトランジットポイントになっています。最近では環境問題やジェンダーにまつわる作品が増えるなど、時代の流れとともに来るアーティストも変わりました。だから、「ドアは開き続ける」というのが大事だなと感じています。作品ができるまでのプロセスとか、始まりの瞬間とか、晴れの場ではなく「日常の大切さ」みたいなことが社会的に広がっていけばいいと思っています。

PROFILE

1985年マレーシア生まれ。東京藝術大学建築科大学院修了。在学時より建築から時間を考え続け、舞台美術・展示・街づくり等、状況を生み出す現場に身を置き続ける。2013年より千葉県松戸市を拠点にアーティスト・イン・レジデンス「PARADISE AIR」を設立・運営し、今まで400組以上のアーティストが滞在している。

FEATURE #02

パラダイスエア

PARADISE AIR



◀公式ホームページ

現在では、短期滞在のアーティストを受け入れる「ショートステイ・プログラム」、公募によって選出されたアーティストの渡航・滞在・作品制作を3カ月間フルサポートする「ロングステイ・プログラム」、アーティストと地域をつなぎ多様な学びと交流を促す「ラーン・プログラム」の3つを軸として活動しています。

無償で宿泊場所を提供する「一宿とアーティストがもたらす「一芸」で、かつての松戸宿の歴史伝統を踏まえた「一宿一芸」をコンセプトに、国内外のアーティストたちが行き交う文化・芸術のトランジットポイントとして、新たな歴史を積み重ねています。

「パラダイスエア」は、かつてホテルだったビルを活用して運営されています。楽園を意味する「PARADISE」、アーティスト・イン・レジデンス(Artist in Residence)の略称「AIR」から「PARADISE AIR」を名称付け、2013年にその活動を開始しました。江戸時代、水戸街道の宿場町として栄えた松戸駅前には、江戸と水戸をつなぐ要所として多くの旅人が行き交いました。地元住民の邸宅には、過去に訪れた旅人が宿泊料代わりに残した作品が今も残ると言われます。

THE ART city MATSUDO

REPORT

国内外のアーティストたちが行き交う文化・芸術のトランジットポイント